

審議会等の会議結果報告

1 会議名	第2回香良洲地区地域審議会
2 開催日時	平成23年11月4日(金) 午後1時30分から午後3時30分
3 開催場所	香良洲公民館 2階 研修室
4 出席した者の氏名	(審議会委員) 松島 昇 太田正之 奥野ひとみ 奥田菊子 木下美佐子 藤川雅幸 山本容江 (事務局) 津市長 前葉泰幸 総合支所長 後藤忠久 地域支援員 倉田博美 副支所長兼地域振興課長 北山俊一 市民福祉課長 神田久代 産業振興・環境担当副参事 池山要一 危機管理担当副参事 藤川龍作 調整教育総務担当主幹 清水和継 地域振興担当主幹 工藤由美 地域振興担当副主幹 伊藤哲也
5 内容	1 平成22年度地域かがやきプログラム事業評価における香良洲地区地域審議会の評価について 2 災害時における地域の現状と課題について 3 その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	0人
8 担当	香良洲総合支所 地域振興課 地域振興担当 電話番号 059-292-4374 E-mail292-4374@city.tsu.lg.jp

議事の内容 下記のとおり

事務局 それでは定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日は、委員の皆様方にはご多用の中、ご出席いただきまして誠に有難うございます。

 只今から平成23年度第2回香良洲地区地域審議会を開催させていただきます。

 それでは、開催に先立ちまして会長さんよりご挨拶をいただきたいと存じます。

松島会長 あらためましてこんにちは。何かとお忙しい中、第2回地域審議会ということでご出席を賜りましてありがとうございます。早いもので、この前の3.11あれからもう9ヶ月くらい経ちました。阪神淡路大震災のときもそうでしたけれど、そのときは、全部の国民の目がそちらの方へ行くのですけれども、時間が経つとどうしてもそういう直接被災された方以外は意識が薄れていくのが普通でございます。けれど、今のこの機会に今日の事項書の議題にもありますように、地域の安心・安全の中で有事の際に我々がとる行動等も本日議論していただくわけでございますので、その辺も十分に理解していただいて、決して忘れるような出来事ではございませんのでそのところもご審議いただきたいと思っております。

 また、すでにご存知のように前葉市長さんが町内巡視ということで香良洲町へお越しいただきました、審議会にも出席していただいているわけでございますけれども、念をおして申し訳ございませんが、市長さんと審議会の意見交換ではございません。あくまでも本日は地域審議会ということでそれをご覧いただくというようなかたちでございますので、議論に熱が入った場合は直接市長さんの方へいろいろご質問が出やすい状態になるかもしれませんが、その辺はご理解をいただきまして、地域審議会として議論を進めて行きたいと思っております。

 ここで市長さんから一言ご挨拶をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

市 長 はい。みなさんこんにちは。大変お世話になっております市長の前葉泰幸でございます。今日は香良洲の審議会の松島会長さんの話にあるとおり今日おじゃましたのは、審議会自体この格式の高い地方自治法に直接基づくものでございまして、そして合併後のこの地域のことを考えていただく最も重要な場所でもありますので、地域審議会が開催される場所、時間について、身体が空いておればというか無理やり空かせて全部の地域審議会に順番に、といいましてもうまくはまってしまうときだけになってしまいますが、どれだけ時間がかかるかわかりませんが、私自身がおじゃまをしようと言い出してそれで始まったことでございます。もちろんこれまでの議事録もしっかりと読ませていただいておりますし、今日もですね、生の形で地域審議会の普段の形でご審議をいた

だく、そのときにたまたま市長がいるからこのことはこの場で聞いてみようかということがあれば、お尋ねいただいたら私も忌憚なくお答えをいたします。まだ勉強中でございますのでいっさいお答えしません、というような大人気ないことは言わないつもりでございますので、そこは自然体で今日はお願いしたいと思っております。冒頭ご挨拶をお許しいただきまして一言だけ申し上げますと、やはり合併後5年半経って香良洲のときはこういうところが良かった、あるいは香良洲の時に逆にこういう面はなかなか小さい役場ではたいへんやったけど津市になってから集中的にできるようになったとか、いろいろあろうかと思えます。どうしてもですね、松田さんの時の5年間は一体感があるまちづくりということで、ある程度この10の市町村の行政サービスの水準をしっかりと合わせないかん、あるいは不公平のないようにしなければいかん、ということがどうしても中心になって進めてこられた、そうせざるを得ない面があったのであろうかと思えます。その結果、今まで香良洲独自でやっていたことができなくなったというようなこと、あるいはそのあたり住民のみなさんからすれば、ややどうかというようなことかもしれないと思っております。これはこれですね、たとえば職員についていえば、3119人合併前いましたのが今2500人体制に向けて努力をしておりますし来年、遅くとも再来年にはそのあたりできてくるのではないかと思っておりますが、そういう風に痛みを伴う改革といいますかやっついていかななくてはならない、これは引き続きやっていますが、一方でこのあたりまでできますともう一度独自色、地域のあり方を考える時期に来ているんだろうな、10年経ってみたらどんどんどんどん、行政レベル、サービスレベルは、10市町村揃ったけれど何もなかったということにならないように地域にとって、これが香良洲にとって一番必要なんだ、大事なんだということをしっかりと押さえていっていただかないといけないタイミングにきているのではないかなと思えます。ただその時にやっぱり大事なのは、各地域の特色を生かしたということでありますので、やはりその地域ならではのことはその地域の方が一番よくご存知であるし、それをどうやってほかの地域の方には、香良洲がそういうことで一番なら私らのところは違ってこういうところが1番なんやと、そういうことが出てくる。それがまた新しい津市における1つの地域の活性化の動きになってくるのではないかとこんなふうな期待もしております。まだまだ仕組み作りは大変であります、1つだけ来年度に向けて考えておりますのは、総合支所がより皆さん方のほうに、地域の住民に近い立場で仕事ができるようにということを考えております。地域振興というセクションがありますけれども本庁でも各地域の地域振興をバックアップする、

地域政策を推進するような、そういう推進組織も作ってそして、しっかりと地域を応援していくということも必要なのではないかなと考えておりました、そのあたりから10年後、合併後10年後に向けてのまちづくりを進めていきたいなどこのように思っています。このようなことを頭におきながら今日は香良洲地域の審議会をしっかりと聞かせていただいて、そして、明日からの津市政にぜひとも活かしていきたいと思っておりますので今日はひとつよろしく願いします。ありがとうございます。

事務局 ありがとうございます。

それではここで、出席者の報告をさせていただきます。委員10名中出席者7名で、地域審議会の設置に関する協議第9条の第4項によります2分の1以上の出席がでございますので、会議を開催させていただきたいと思えます。

本日の議題につきましては、まず議題第1の平成22年度地域かがやきプログラム事業評価における香良洲地区地域審議会の評価について、議題2の災害時における地域の現状と課題等についてでございます。

それでは、さっそくですが、地域審議会の設置に関する協議の規定によりまして、会長が議長になっていただきますので、議事の進行をよろしく願いいたします。会議は公開で行うものとなっております、会議の議事録は津市のホームページ上で公開されますのでご了承ください。なお、本日の傍聴者はございません。それでは、会長さん議長席の方へお願いいたします。

松島議長 只今から、第2回香良洲地区地域審議会を開催します。本日の会議録の署名委員を太田正之さんと山本容江さん両委員を指名致します。よろしく願いします。

それでは議事に入っていきたいと思えます。会議は全文記録となりますので、ご発言につきましては、挙手をしていただき、明瞭なご発言をいただきますとともに、議事運営につきましては、皆様方のご協力を賜りますよう、お願いいたします。本日の予定としましては、3時30分には終了したいと考えておりますのでよろしく願いします。

本日の議題、事項書3の議題第1平成22年度地域かがやきプログラム事業評価における香良洲地区地域審議会の評価について、事務局説明をお願いいたします。

事務局 第1回香良洲地区地域審議会にてお願いをいたしました評価につきまして、委員のみなさんから提出いただきました評価を一覧にしてまとめさせていただきました。A3資料をご覧ください。評価内容につきましては、A達成できた、B概ね達成できた、C継続して実施、D課題克服が必要ということです。

それでは、ふれあいのかおり事業からご紹介をさせていただきます。

評価A、評価Bで継続が必要、評価Cで以前のように、海岸清掃後物産展用チケットを配布する。見物客用の催しで男女別、年齢別に参加できる趣向にしてはどうか。評価Bで参加者多数で楽しくできた。潮干狩りは他市町の方も楽しみにしてみえるので継続していきたい。評価Cで参加者の固定化とその方たちの口添え等で参加者を増員していく。評価Bで徐々に地域外の来場者が増えている。イベントの参加者の変化に期待する。評価C、評価Aで継続が必要、以上でございます。ご審議よろしく申し上げます。

松島議長 ありがとうございました。只今の説明についてご意見ご質問があればお受けしたいと思います。また、ふれあいのかおり、パターゴルフ大会、体育祭、宮踊り等、いろいろな催し物が当町にありますけれども、地域審議会のみなさんにおいてもいろいろご出席していただいたり、地域のみなさんと会話をしていたりした中での評価であったと思います。かさねてお礼申し上げます。ご質問がなければ次へ進めさせていただきます。何か今の評価について、ご質問、ご意見ございませんか。

木下委員 他地域への啓発としてこのふれあいのかおり事業は大変有効だと思います。実際合併後、他地域からとか県外から遠方からお越しいただく方が増えてきていますが、そういう意味では香良洲を知っていただくことには、このふれあいのかおり事業は有効だと思いますが、内容に関してマンネリ的になってきていることについて考える必要があるかなといつも参加していて思います。

松島議長 ありがとうございました。今、木下さんからのご意見に対して事務局の方としては、どのようにとらえてみえますか。

産業環境振興担当副参事 先ほどのマンネリ化ですが、香良洲のふれあいのかおりのイベントの実施状況が、海岸清掃、潮干狩り、こちらにイベントと、イベント会場が異なるので数年前から以前はブースのテントだけでしたけれど、海岸へ行ってしまうとお客さんがいなくなるので、テントをつけて、そこへテーブルを置いたらそこへお客さんにとどまっていたら会場のところで見える人が増えたということで、今回は雨に降られまして大変でしたが、徐々にお客さんが分散しないように努力はしているつもりです。ただいろんなものをしようと思うと少しスペースが狭いので、いっぱい、いっぱいブースとか新たなものを入れようと思うと考えなくてはいけない。他にもブースの中に入りたいという方がみえます。が旧香良洲のものを主にしてやっておりますので今後どうなるかということは、ふれあいのかおり実行委員会の中で、こういうことがありますよと審議をしていただいてまた、来年にむかって考えていきたいと思っています。

松島議長 ありがとうございます。ということで、ふれあいのかおり実行委員会のなか

で、この課題をとりあげていただくということで結構でございますね。それでは、ほかにございませんか。ないようでしたら次に進んでいきたいと思えます。

事務局 パターゴルフ大会事業、評価C、評価Bで継続が必要、評価C、評価Cで健康づくりには寄与しているが、参加者の伸びが課題である。評価Cで生涯スポーツの振興、健康づくりに貢献するためにまた、この大会に参加するにも日々の練習が必要でこれが振興、健康づくりを荷っている。評価Cで参加者が固定化しないような取り組み、PR、参加賞の配慮が必要。パターゴルフを行う人の増加へと結びついたら良い。評価D、評価Bで継続が必要。以上でございます。ご審議をお願いします。

松島議長 ありがとうございます。只今の事務局からの説明についてパターゴルフ大会に関してご質問があればお受けしたいと思います。よろしいですか。それでは、次へ進みたいと思えます。

事務局 香良洲地域体育祭事業、評価Bで継続が必要、評価Bでどの団体にも属さない人の種目が限定されているので、簡単な種目で参加できるようにしてはどうか。評価Bで幅広い年齢層が楽しく参加できた。これからも継続して行ってほしい。評価Cで各種団体、全地域住民、町全体が一体化する事業で町民の元気の源である。年2回開催も視野に入れる。評価Bで健康志向の高まりで日々スポーツをやる方が増加し昔のように体育祭にわざわざ行かなくてもという考えも増加傾向にある。故に、地域内交流の場、イベント型体育祭として楽しい取り組みを期待する。評価Cで地域の親睦が図れる。評価Bで継続が必要。以上でございます。ご審議お願いいたします。

松島議長 はいありがとうございます。只今の香良洲地域体育祭事業についての事務局からの説明に関しまして、ご意見、ご質問等があればお受けしたいと思います。

太田委員 はい。私 B と書かしてもらったのですが、何も団体に属さない人がたくさん見えると思えます。そういう人が気楽に出られるという種目が少ないので、実行委員さんに年齢層の高い人も気楽にできる、50m走や100m走は走れないけど、また玉いれはあったけれど、何かの団体である。一般の方が幅の広い層でみんなが出られる種目を作ってほしいというのが1つと、これは実行委員の方に伝えていただきたいのですが、最後に競技が終わってからくじがありますが、競技が終わってから1時間かかってそれも無駄な時間であると、もっとスムーズにいたらどうかなという気がします。はじめから抽選券を渡しておいて手を上げていただくほうがいいのかと、1つ1つ読み上げて何番、何番と、2時に競技が終わったけれどそれが終わったのは3時だった。ということで待っている人もイライラしていたということも

あったので、今後の課題ではないかなと思っています。以上です。

松島議長 はい、ありがとうございます。当初景品をつけたくじ方式をとったのは、当時私がかかわっていましたが、言い方は変ですが客集めの部分として景品を出すという意見が多く、体育振興会としては出したといういきさつがございますので、当初きまったやり方から変更していない。太田さんから質問があったようにいろいろな形を考えて体育振興会のほうで検討いただく余地もあるかと思っておりますので、事務局のほうからもそういう提言があったということをつけ加えていただきたいと思います。

地域振興課長 委員の意見は審議会の意見として体育振興会へ伝えさせていただきたいと思っております。

松島議長 ありがとうございます。他にないようでしたら次に進んでいきたいと思っております。

事務局 宮踊り事業、評価Bで後継者の育成が課題、評価Bで継続必要、評価Cで神社入りを17時、宮踊り開始を18時、終了時間を午前0時にすると小さい子、お年寄り、他地域の人にも多く見ていただける。評価Cで地域住民が楽しみにしている祭りである。年々、青年団の活動が少なくなっていく中地区の後継者も続けていくのが大変である。評価C、評価Cで後継者づくり等柔軟な運営と伝統文化として今後の発展を期待する。評価Cで年々4地区の後継者を育てることが困難となっている。伝統文化であるため、継承して他地区の若い方の参加が必要となってくる。評価Bで継続が必要。以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

松島議長 只今の事務局からの宮踊り事業についての質問があればお受けしたいと思っております。

太田委員 私Cなんです、自分の意見もあり人から聞いた意見でもあるのですが、神社に入って踊って終わると今年も朝の4時であった、私の若いころはもっと遅かったのですが、小さい子どもが踊りを実際見ないで帰っていきます。どういう踊りかわからずただ、時間が早ければ幼稚園や小学校低学年の子どもも踊りをみてお父さん、お母さんと一緒にできるのではないかなと私の意見と地域の方の意見なんです、午前0時を回ってしまうと大人だけのものになってしまうと祭りといえば祭りですが、小さい子どもに知っていただくために7時か8時に始まって午前0時までには終わってしまえばどうかなと思います。次の日仕事の人もみえます。午前0時までには終わってしまえば片付けるのはやいし、集中して集まってきて小さい子どもにもこんな踊りなんだとわかってもらえていいのではないかなと思って書か

させていただきました。

松島議長 はい、ありがとうございます。ここで、前年度まで地区の代表者であられました藤川さんも地域審議会としてお見えですので、藤川さんのほうからその件に関して一言ご発言があればと思います。

藤川委員 自分の意見でありまして、他の人と調整はしておりませんが、たとえば香良洲以外の祭りでは、徹夜とか何日も続く祭りがあります。そこまでまねできませんが徹夜での踊りがあってもいいかなというのがまず1つ、それから私が言うとお叱りをうけるかもわかりませんが、祭りばかというのがあります。香良洲の宮踊り特にそういう人達で行われています。この1年この宮踊りにかけて待っていたということで騒いで踊ってそして夜が明けたというのが関係者の思いではないでしょうか。なかなか難しいけれど、今言われたように遅くまでやってもいいけど、それは好きな人でやってもらって、早くから小さい子どもにみえるように晩ご飯を食べて宮さんへ行ったら踊っているというのもやり方の1つかなと思いますが、長時間荒い踊りなので主催者側がやれるかどうかということがあります。いろんな方がおっていただくことが大事かなと思っております。たしかに後継者が難しいです。子どもが減ってきている、子どもはいるけどあんな荒くたい踊り参加させたくないという家庭が増えています。馬場区でも義務教育が終わって高校になる、普通であれば宮踊りをやってくれる人が少ない、空白が生じております。後継者というのは難しいと、それから踊りを変えていく、飲んで遅くまで騒いだりしない踊りの方が後継者を確保するにはいいかなというのもあります。いろいろ問題がありますが、続けていくことについては今後とも協力をお願いしたいと思います。以上です。

松島議長 はい、今藤川さんから発言があったように、藤川さんはご存知のように地区の代表で自治会長さんを経験された中で、踊りのある地区の自治会長さんの経験者としてのご発言だったと思います。参考にさせていただきたいと思います。

奥野委員 奥野です。私は青年団の祭りについてですが、青年団のかたが香良洲神社に入る、お宮さんに入る礼儀がだんだん欠けていく面が往々にして見えるのですが、地区の方は後継者がいないことに苦労しているのはよくわかるのですが、青年団の祭りに対する精神的な考え方を今いち考え直していただくことがあるかと思いますが、宮踊りの事業のかたも大変苦労して見えるのですが、宮入りの時とか道中に練り方がいけないということではなくて、青年であるいじょうの礼儀正しいエチケットを守っていったほうが後

継者にも繋がるのではないかな、夜遅い踊りというよりいいのではないかと思います。

松島議長 はい、ありがとうございます。先ほどの奥野委員の意見にもあったように宮踊り、藤川さんのご発言にもあった踊りばかといいますか、踊りだけに1年をかけているという人がかなりみえまして、その方たちというのは依然として、良い悪いは別としまして以前からの風習をそのまま引き継いでいくのが香良洲の宮踊りという感覚をお持ちの方も結構みえますので、奥野さんのご意見はごもっともだと思います。これからは他地域の方々も香良洲の宮踊り、盆踊りを楽しみに見に来ていただくような形にしていくのが課題となってくると思います。その辺は香良洲審議会からとしてまた、4区の自治会長さんのほうへお願いをしていきたい、このように考えております。

木下委員 このGのかたの意見にあるのですが、私はよそから来た人間で残念ながら、宮踊りの時期はいつもおれないのでビデオでしか見たことがないんです。この評価にあたって地元の方、特に4地区の方にいろいろお聞きしたんですが、負担が非常に大きいと、そして出来たら他地域にも私は、地区は浜浦なんですけど浜浦はいいわねと逆に言われてしまうんですね。そういうことは同じ香良洲地区に住みながら4地区に負担を負わせてしまうことは良くないかなと思ったりですね、やはりさきほどおっしゃられたように後継者とかそういうところを柔軟に考えていただく時期にそろそろきているのではないかと、地元ですと宮踊りにかかわってきた方も内部からいろいろ変えよう変えようとしていてもさきほどおっしゃられたように、かなりずっと頑なにこの考えをもってみえる方がいらっしゃるのでなかなか難しいと思いますが、そろそろ考えていただく時期にきていると思います。

松島議長 はい、まったくその通りでこれは個人的な意見でございますけれども、宮踊りにかけるお金があれだけ必要か、その地区と思っていました。そういう部分も含めまして、これからは改革をしていかないと宮踊りの継続も困難になってくる時代になってくると思います。そこら辺もふまえて香良洲審議会からとしても4地区の代表者の方々にもお願いをしていくような方向で、事務局の方もそのような方向で接触していただきたいと思っております。よろしく申し上げます。他にございませんか。

奥田委員 宮踊りですけども、中学校の文化祭等に参加させていただいていろいろと内容を見せていただいているのですけれども、その時に生徒が香良洲の産業とかこういった伝統文化とかについて地域を回って地域の長老

さんに話を聞かせていただいたことについて発表されるんですが、今回の宮踊りについてもしてました。子どもたち何人かが壇上に上がってこういったことを披露しているのを見せてもらったのですが、結構みんな興味をもって取り組んでいるようで、後継者という問題があるようですけれどそういった方向へつなげていければよいと思います。

松島議長

はい、今の奥田さんの意見のなかにもございましたように、やり方さえ変えればみなさんが一生懸命楽しんで見ていただけるという形になるというのが、奥野さんの意見にございましたように、その礼儀作法であるというか宮踊りであるから毎年恒例のように無礼講であるという変なとらえ方をしている人が結構みえます。それと正反対に奥田さんからご意見があったように、決められた場所でのイベントとして宮踊りを見ていただくことに関しては、かなりいい面が多いという意見もございますので、そういったことをふまえた上で先ほどのことと同様ですが事務局の方から宮踊りに関する4区の地区の代表の方にこういう意見もあったということをお伝えしていただきたいと思います。よろしくお願ひします。ほかにございませんか。ないようですので次に進んでいきたいと思ひます。

事務局

獅子舞事業、評価C、評価Cで継続必要、評価Cで文化財として継承していく必要性があるので次世代に伝授していく、評価Cで馬場地区において高齢化が進む中、地域の中学生などに指導をして続けていくことができるように頑張っしてほしい。評価C、評価Cで、伝統文化として火が消えることなく後継者づくり等に取り組んでいただくことを期待する。評価Bで継続が必要。以上でございます。ご審議お願いいたします。

松島議長

ありがとうございます。これは馬場地区に限っての行事でございますので、なかなか他地区のみなさんにとっては評価のしづらい面もあると思ひますけれども、事務局の説明につきましてご質問等があればお受けしたいと思ひます。

藤川委員

私の地区馬場地区でやっている事業でありますので、他地区ではあまりなじみのない事業です。で、町内で見ようと思えばいつ見えるのかというと、正月元旦に神社からこの前の道をずっと行って馬場の西まで1件ずつ1分半から2分くらいの時間をかけて約250件くらいを回って玄関で獅子舞をするこれが1つ、同じ獅子舞の仕方で同じことをやる。それから1月2日、午前中12時までの3時間くらいですけど地区の集会場ではこれは悪魔祓い、15種類くらいの獅子舞があるのですがそれ

を交代で獅子舞や踊りをやる。この2回だけなんです。それ以外にやる、たとえば、老人会とか何かどこかの地区で祝い事がある、たとえば香良洲大橋ができたときとか、小学校ができたときとか何かあったときに祝い事として獅子舞をまわすことがありますけれども日常茶飯事にやっているよということはありません。先日津まつりにも香良洲の獅子舞ということで出場しています。あまり同じ香良洲に住んでいても見ていただく機会はないです。馴染みがないので、確かに地区に限られていますので後継者もたくさんいません。興味をもってやっていただく人数だけでやっている。名前は書いてあるのですが実際は足が痛い、動かんということで出てきていただけない方もありまして、獅子を回す人も含めて30人くらいが常時顔をだしています。津まつりには40人くらい参加しておりますのでなんとかもう少し活発にできるようにと思っているのですが。なんせ人を集めないとお来ませんのでそのへんが悩ましいところで現状はこのようなところです。

松島議長

はい、ありがとうございます。ほかに獅子舞につきましてご質問等がありましたらお受けしたいとおおいますが。ないようですので次に進んでいきたいと思えます。

事務局

ユニバーサルデザインのモデル地域づくり事業、評価C、評価Bで継続必要、評価Bで小学生から老人まで各種団体へのPRが必要である。評価Cで市民への周知が必要、ユニバーサルデザインの啓発活動を継続して行ってほしい。評価Cで年間事業数多いが地域実施事業への参加が少ない。評価Cで活動への協力者が増加しているが全域への徹底がまだまだである。評価Cで地道な活動が評価される。地域住民への啓発活動が今後も必要と思う。評価Bで継続必要。以上でございます。ご審議よろしく願いいたします。

松島議長

ありがとうございます。只今の事務局の説明に関しましてご質問等があればお受けしたいと思えます。

木下委員

僭越ながら自分のところで自分が評価するということは非常に難しいところがあるんですが、宣伝を兼ねて一言いわせていただきたいのは、ここでなかなか地域への徹底がまだまだ周知が出来ていないとか、活動数はたくさんやっているがとあるんですが、確かにそれでモデル地域になる前から活動をやっていましてもう10年ちかくなりますが、やはり未だに狭い地域でありながらもユニバーサルデザインで何という方がまだまだいらっしゃいます。他地域に比べるとかなりやっている地域なん

ですねここは。それでも本当に知られてません。今年は後ほどの議題の中にもありますが災害の3. 11以降特にユニバーサルデザインの災害時の安心・安全で一生懸命取り組んでおりまして、今年11月17日に津市の方でこの香良洲で市民人権講座が、他の地域でももちろんやっていますが、空いてる方は11月17日の午後の人権講座に出ていただいで一緒に参加していただきたいと思います。私達の取組もやはり参加して下さった方が異口同音に言われるのは、これはとっても大事なことでおっしゃってくれるんですね。協力して下さる方はわずかですが年々増えてはきています。でも、全体に知っていただくということはまだまだで今、広報でござん頂いていると思いますが、前回2回チラシを入れさせていただいています。今月またもう1回入ります。のこり4回入ります。確かに評価に書いてくださっているようにまだまだ地域のほうにも私たちも全体ということばかりではなく香良洲の方にまずは知っていただく取り組みをと思って今チラシを、今年7回シリーズで入れますのでぜひ見ていただきたいなど、それから11月17日になぜ参加していただきたいかという、単なるお話だけではなくワークをやって、一緒に意見交換ということでワークショップ形式ですでにここ何回かやっておりますのでぜひみなさんの声を聞かせていただきたいという思いがありますからぜひ参加をしていただきたいと思います。よろしく願いします。

松島議長

はいありがとうございました。ほかにご意見ございませんか。なければ次へ進んでいきたいと思ひます。

事務局

では最後の事業、ふるさと愛事業です。評価Cで継続必要、評価Cで香良洲梨の受粉から収穫まで体験できる良い事業である。評価Cで地域の特産物を小学生の子どもたちにわかっただけのように継続してほしひ。評価Cで小学校の活動だけで終わるのは残念。後継者の育成、地域の活性化のため、中学生、一般住民へも呼びかけをする。評価Bで子どもたちを通し、地域ブランドをしっかりと意識付けしていく努力を今後も期待する。評価C、評価Bで継続必要。以上です。ご審議よろしくお願ひいたします。

松島議長

はいありがとう、只今のふるさと愛事業の説明についてご質問等がありましたらお受けいたします。よろしいですか。それでは、事業に審議会としての評価をつけていきたいと思ひます。まず最初にふれあいのかおり事業、これにつきましてはCが4件、Bが2件、Cが2件となつて

います。この評価は多数決となるとCになりますがCの評価でよろしいですか。

木下委員 AもあるのでBくらいで。

松島議長 Aも2件あります。Cが継続して実施、Bが概ね達成できたという評価でございますがどちらにさせていただきますか。

藤川委員 この評価のCとAは切り離して考えないといけないと思います。AとかBは達成できたかどうかということで達成できたけどやるかやらないかというのはこれ同列で評価してしまうと、Cの継続して実施というのは、達成出来ていないので継続となるとみんなだめなんやと、その事業何をしているのかという話になるんですね。だけどこの事業の目的は達成できているけどもまだまだなので続けていくというのが本来の評価だと。

松島議長 わたしもそれがCの評価だと思います。

藤川委員 だいたいがこの事業やめておけ、というのはいないんです。基本的にはCがかかってくる、継続してやる、けどその事業はよくやっている、達成できているんだと、今のふれあいのかおり事業はCが一番多いですね。続けてやってもらえばいいんだという気がしますが。内容はなにもないよという答えが出てくるとだめなので。

松島議長 たぶんこのCの評価というのは、先ほど藤川さんがおっしゃっていただいたようにほとんど達成できたけれどこのまま努力してやっていきましょうというのがCの評価だと私も思っていますので、Cの評価ということでよろしいですか。

委 員 はい。

松島議長 それでは、ふれあいのかおりCとさせていただきます。

木下委員 前向きに、そこで満足することなく継続してやっていただくと。少しこの評価むつかしいですね。

松島議長 続きましてパターゴルフ、これがAはなし、Bが2件、Dが1件、CがほとんどがCでございますが、これもCでよろしいですか。

委 員 はい。

松島議長 Cに決定します。続きまして香良洲地域体育祭事業、この事業はAはございません。ほとんどがB、Cが2件、こういうことでございます。これはBでよろしいですか。

委 員 はい。

松島議長 これは、Bとします。宮踊り事業これもAがない。Cが多い、Bが3件、

これもCでよろしいですか。

委員

はい。

松島議長

獅子舞事業、これもほとんどがCです。Bが1件。これもCとさせていただきます。

委員

はい。

松島議長

ユニバーサルデザインのモデル地域づくり事業、これは、Cが多い、が3件でいい意味でのCと決定させていただきます。

委員

はい。

松島議長

ふるさと愛事業、これもCでよろしいですか。

委員

はい。

松島議長

ありがとうございました。

木下委員

よろしいですか。心配するのはCのなかでたとえばうちのユニバーサルデザインで1年間に事前に予定がありますよね。それを達成していないのではないの、それなら継続してやる必要があるのか、とそれなら評価が出来ないとも限らないのでいらないのではないかと予算もきびしいしということになりかねないのではないですか。

松島議長

これ、そういう意味での評価になっていると思います。またいい意味でのCともとれますので今後の課題として評価のランク付け、これをまた、当審議会でも検討していきたいと考えておりますけれど、事務局の方から気がついた点があれば説明していただきたいと思います。

地域振興課長

総合計画が出来ましてその中で地域かがやきプログラム事業があります。この事業をするにあたって、だれがこの事業を必要なのかということそれぞれ検証する必要があるとございます。検証した中で改正するところは改正し、続けていくべきものは続けていこうと評価をする、これに対して検証していくことが必要になってきますのでその段階としての1つの評価になってくると思います。先ほどのおっしゃられた懸念のなかでたとえば課題克服が必要というDという評価が仮にあったとした場合には、どのへんの課題が改正すべきものなのかどうか、その辺をできるのかどうかという検証を含めて次年度への予算要求に関して、事業の必要性が出てくると思います。今おっしゃられている中で、Aにしようか、Bにしようか、Cにしようかという中でいきますとCより上というか、ABCに関しては、これは事業としてその年度の思いは、目的は概ね達成できたのではないかという解釈ができる。ただ、それでもまだもっといいように出来るだろう、というのがあればそれは評価の中に意見を入れるところがありますので、改

正すべきところをたとえば実行委員会でするのであったら意見として出していこう、そういうことになってくるかと思しますので、Bだからどうだとか、Cなのでやっているだけでいいのではないかということでは決してないと思います。

松島議長 はいありがとうございます。我々評価する側としましては、これが書いてありますので、先ほど藤川さんからご意見がございましたように、いい方のCといいますか、そのBとCの区分けの壁が分かりづらい、非常にAに近いBとか、Dに近いCとか考えられるわけでありましてその評価の文句ですが、先ほど北山課長から説明がありましたがCの評価について事務局はそういう風なとらえ方をしているということはわかったんですが、香良洲の中での判断の基準としましては、これ以外のことは付け加えられないのですか。

地域振興課長 評価としてはこの4段階です。コメントの中でそれぞれの思いは書き入れるということになっております。ちなみにここで評価をいただきまして、これが東部エリア会議の中での発表となります。津市が4つの地域に分けてそれぞれのエリアで事業をやっている香良洲地域も1つのくりです。今後は東部エリアへあげていきます。

松島議長 これは、各エリアともA、B、C、Dというのは同じですか。

地域振興課長 はい。

太田委員 わたしのおもいは、課題はあるけれども継続して行ってほしいということでB、Aで達成できたけれどもずっと継続して実施していくという意味で達成できたけれども継続していく、達成できたので継続しなくてよいと小分けして書いてあれば書きやすかったのですが。

地域振興課長 今回地域かがやきプログラムというのは1つ1つそれぞれが目標をもっているのだと解釈しています。その目標にたいして達成できたとかきちんと出来たとか、たとえば体育祭は開催しました。ですがここに香良洲町民の親睦も兼ねたコミュニティづくり云々ということが仮に書いてあったとします。ここまで達成できたのかどうか、いやもう少し考える必要があるとか言うのがこの達成できた、概ね達成できたの評価に繋がってくると思います。

松島議長 ありがとう。たぶんほとんどの方が思っておるのが、達成できた、しかし達成できたけど継続して行ってほしい、この継続がややこしいのです。表現が。もっと続けて行ってほしい、達成できたから、という限りなくAに近いCだとほとんどが思っていますけれどその辺がすっきりしないと

ころだと思imasるので、今、太田さんから意見があったようなところがCの根拠だと思imasす。

太田委員 市長さんに聞きたいのですが、毎年津まつりを実施していますがこれは達成できていますよね。けど継続していますよね、これはどのように解釈すればよろしいですか。

市長 評価の書き方と今後のことと、一言でいえばものすごく良い、素晴らしい表現ではないですね。つけにくいですね。来年以降、全体でコメントのし方を考えてもらいます。自ら自分の地域のことで、地域かがやきプログラムでやっておるんですが、これについてどんなものでしょうかね、ということ審議会でご意見をいただくのがメイン的であって明確にAかCかとか、来年の予算がこれで左右されるものではありません。

松島議長 はい、ありがとうございます。こういうことで今後の課題、評価の仕方ということで。

支所長 このコメント、A B C Dの評価はございますが、そこへ追記の部分として表現がありますが、ここをみなさんのご意見で入れさせていただきたいと思imasす。

松島議長 はい、ありがとうございます。ほかにございませんか。

委員 はい。

松島議長 それではこれを香良洲地区地域審議会の評価とさせていただきます。

それでは次の議題へ進めさせていただきます。

災害時における地域の現状と課題についてです。皆さんご存じのとおり、当香良洲地区は地盤が低く、海拔0mと言われておりますし、災害にも弱い地域とされてきました。それにも関わらず、地域の住民の皆さんの災害に対する意識が非常に薄い。過去に大きな災害に遭われた方の数も少なくなつたということもありますが、大した災害もあまりなかったということもあり、昔から当地区に伝わる諺ですが「伊勢路に住んでもものあんじするな」これは、香良洲弁ですけども、伊勢の地に住んでたら何の心配もいらぬ。こういうような住民の皆さんの地域性の考え方、風習もありまして、それも災害に対して認識の薄さに繋がっているのではないかと思imasす。常日頃から話をさせていただいている、住民の皆さんにこれからは、防災ではなく減災という言葉が主流になってきそうなお時世でござimasるので、なぜ、減災かというのと、防災とか福祉とかいうのは、お金がいくらあつてもこれで良いというところまではいきませぬ。何をするにしても限られた予算の中で、やりくりしていくのでござimasすから、もっとも有効な減災

というのは地域の皆さんの災害に対する認識の高さ、地域性を活かして隣近所の住民の皆さんとコミュニケーションを密にとっていただくということが、過去の災害事例を見ましても、阪神淡路にしても、東北の東日本大震災にしても、ほとんどの方が助けられたのは、自力と、隣近所、これで救助されたのがほとんどでございます。そういった現状を踏まえていただきまして、少しでも減災に繋がるご意見がございましたら、お聞きしたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

藤川委員 折角、市長さんがおいでになりますので、1点だけ要望をさせていただきたいと思えます。

今、香良洲地区は防災の放送設備が各地区に9箇所あり、そこを対象にした拡声器のような放送施設があります。昨年の12月までは、1軒1軒に屋内に放送設備がありましたが、これが撤去されたわけですが、現在、活用している放送設備では、町内に対応できていない。ここの放送が聞こえないというのが現実です。昨年自治会長をさせていただいておまして、聞かせていただきましたが、1つの施設からだいたい300mの範囲は聞こえるということでしたが、今年の夏の台風の時などは、雨戸を全部閉めていると、全く聞こえないのが現実です。もっと設備を充実させていただきたい。極端なことを言えば100mごとにしていただくとか、個別の放送装置を復活していただくとかを考えていただけないかと思えます。費用負担もいるかとは思いますが、先日の3月の東北の災害とか、台風15号の豪雨とか結果として避難とかも出てきます。テレビやラジオ以外にも、市の広報・連絡を把握するためには町内の放送装置が必要だと思えますので、一度ご検討いただきたいと思います。

市長 これが、まさに公平性というか全市一律で進めてきたものの一つです。私が就任前のことではありますが、そういう決定がなされて撤去されたわけでございます。香良洲以外のところには、元々なかったものですから、今のような話は比較のしようがないものですから、なかなか聞こえてこない。香良洲では、物凄くよく聞きます。おっしゃるとおりだと思います。

今、なんとかならないのかということ在必死で考えています。というのは、この前の「香良洲体育祭を実施します」という放送は、津中に物凄く響き渡った。なぜかというと、あの日は雨が上がって、朝の7時で静まり返っている中で朗々と流れたので、物凄く良く聞こえたわけです。ところが、実際雨が良く降って、風は吹いていて雨戸を締め切っていれば聞こえ

ないわけです。その中で、同じ大きさと、同じように放送していれば絶対聞こえないというのは、その通りだと思う。私は危機管理部へ指示を出してありますが、声の大きさとか、しゃべり方とか、スピードとかを調整してやるように。これだけ市民の皆さんにご不満に覚えていただいているのはダメなので、どうしても技術的に出来ないのであれば、別のことを考えなければならないが、まずは工夫してやってみたいと思います。ただ、命を守ることなので、万一のことがあってはいけないので、11月16日の広報津へ聞こえなかった場合どうすれば良いかを載せました。間もなく配られるものには書いてありますが、電話をしていただいて、香良洲の番号を押してもらおうと、香良洲のたった今流した放送の内容が流れるようにしてあります。恥ずかしい話ですが、この間、やってみたら1時間前の放送が流れていたということで叱られましたが、調べたら、放送システムの問題で流れなかったということが分かって、どこかの地域での話ですが、もう改善をしましたが、少なくとも、今日の放送が分からなかったら、その電話番号へ電話すれば、内容が聞こえるようにはなっています。これは、根本解決にはなっていないことは分かっていますので、やってみてダメなときには、別のもの考えないといけないが、個別の、元々のものを復活するというのは、耐用年数のきているものを22年まで引っ張ってきて、これ以上もたないということで、他の地域がやっているようなシステムに代えさせてもらったので、それを元へ戻すというのは難しいと思います。

支所長 香良洲の地域の皆さんには、個別受信機は防災無線とあわせて行政無線としてご利用されていたと聞いており、香良洲地域の声として危機管理部へ伝えていきます。

松島議長 ありがとうございます。

木下委員 前回の審議会のとときに、私の報告会のアンケートを皆さんに配らせてもらって、審議会へ参加できなかったので意見を出させていただいたのですが、防災大学へ行って同じような話を聞いてきたのですが、確かにハード面で防災無線をいっぱい建てるとお互い共鳴しあって無理なんです。結論からいうと、ハードってさっき言われたように、どこまでいってもこれで良いということはなくて、誰かが聞いたら、隣近所で必ず災害弱者というか、情報の蚊帳の外という人は必ずいるのです。そういうときは、「おじいちゃん、おばあちゃん、こういう情報が入ったよ」とか、電話をかけるといっても、大騒ぎしているときにドキドキもので、パニックになっているので電話なんか出来ません。この間の東北のようなものが来たら、

自分のことだけで大変なのということもありますので、基本は隣近所でまずはということがあるのですが。室内にあったものが無くなるということは、私も香良洲に来てから、便利さを享受しまして。というのは、地域が一体感を感じるのです。単に災害だけじゃなくて、今日は何がありますとかと言われると、私のような他所者でも、なるほどと聞けますし、良いなあと聞いていましたが、諸事情があって無くなりました。だから、あったことの便利さをよく知っているのも、無いことの非常に不便さもよく分かるんですね。ただ、大事なことは、他の地域でFMラジオを利用して、室内に設置したところは人命にかかわることで救助率も上がっていることも事実なんですね。家の中にあるということは、大事なことでと思うことで、地域の方々は自己負担しても良いと言ってくださっている。それからもう一つお願いしたいのは、他の地域と違って香良洲は災害に非常に弱いということなんです。西へ逃げて行かないと両サイドは0mです。そうすると逃げて行きたい橋が落ちる可能性があるのです。そうするとここは、陸の孤島になるのです。実際、地域から出てきている声は、「もういい」ということなんです。人間いざとなれば、死んで良いという人はいないと思う。やはりジタバタするのもだと思っんですね。だから今、市長さんがおっしゃっていただいたように、高いビルを避難ビルの契約とかを進めています。ここでも香良洲の弱さがあるんですね。3階というのは小学校くらいしかなくて、私も今いるところが避難場所になれないかということで、総合支所長とか防災担当の方とお話をさせていただいていますが、そういうところがあっても、やっぱり限界があるのです。足腰の丈夫な方で橋が落ちてなければ一刻も早く高茶屋の方へ逃げると、ところが私たちの逃げて行った先に、その避難所には、我々の災害の物は無い。そういうことを考えると他地域の方にも働きかけて協力していただく関係を作らないといけない。それ以前の問題として、防災無線は一軒7万円くらいかかるらしいですね。どこまで、命の代償として自己負担していいのかと思えるのかという問題がありますが、ここはぜひ、行政の方々や我々と一緒になって考えなくてはいけない問題だと思います。

今、私が災害のテーマで安心安全のワークショップをやっていますが、行政の方々の立場と市民の考えることが、こんなに違うんだということをつくづく双方が感じるんですね。なんで避難しろと一所懸命言っているのに避難をしないのか、ところが避難しない我々には色んな事情があるのですね。聞いてみると、避難行動に結びついて行かないことが、いっぱいあるんですね。

そんな悠長なことは言ってもらえないかもしれないが、やはりここは、色んな人が集まって、忌憚のない意見を出し合って何とか一人でも命を助ける方法で、今できることと、ちょっとずつ努力していくこと、やっていかないと行政にお願いとか、私たちがにしても、どちらもダメなような気がして、皆で話し合いの場とかつくっていかないと、本当にズレているなあという気が最近の実感で考え方が。色んな立場から色んな角度から取り上げてほしい課題です。

よろしくをお願いします。

市長 ありがとうございます。そのズレているなということが大事で、それを気がつかないと、いざという時に準備万端整ったという状態でない状態で災害を迎えてしまうというになってしまい、まさにおっしゃる通りだと思います。

多分1つ1つ丁寧に手当していくしかないと思います。個別受信機が無くなって、これはマイナスなんです。ただ一方で9月の12号なんかのときには、我々の方には、良かったという反応があったのは、エリアメールで、今までは、香良洲の場合は、家にいないと分からなかったものが、どこにいても避難の状況が入ってくるようになった。実際に避難指示を出したところには、きちっとエリアメールが流れましたので良かったと思っています。そのように、いくつかの手当はどんどんしているのですが、全てを見てみると、なかなか完璧にはならないので、そこは一つ一つ丁寧に手当をしていかないといけないと思っています。例えば、逃げて行く先の話もありましたが、東南海地震発災後、雲出川河口に到達するのは138分後であり、この138分間に何をするか、今は、逃げろと言っているだけで、逃げていく先に本当にスペースがあるのだろうかとか、そういうことは分からないわけです。その一方でそんな遠い距離を逃げられない人もたくさんいる。段々とそこら辺が現実的になってきました。この間、三重大学は、ト

コロテン式避難ということで、健康な大学職員は県文へ向かって歩いて避難をし、空いた大学へは、地元の高齢者の方に集まってもらうということを考えていますということで、実際にやってみると言っていました。あるいは、香良洲で言えば、上がれるところへ上がるという意味で、ポンプ場という話が出たときに私は東へ逃げる話なので、それは無いだろうと思っていたんですが、背に腹には変えられないという地元から声があると支所長から話を聞いたので、それも有り得ると思います。それと香良洲小学校だけでは、物理的に無理でいくら屋上にフェンスを付けても無理でして、消防団としてやっていただいていると思いますが、出来ることは一つ一つ順番にやっていっても、これでOKとなかなかならないのが、辛いところにして、逆に言いますと、少しでも、少しでも、丁寧な、丁寧な対策を期限なく終わりなくやっていくしかないのかなあとと思っています。防災対策には終わりはない。ただ職員もどこまで、何をやっていくのか。市長は次から次へと指示を出してきて、対応していく。職員も息切れしてします。最近、やることにプライオリティを付けて、順番を付けないといけないと思っています。

松島議長

ありがとうございました。最初に私も述べさせていただいたように、色んなことをやらなければならないことがあると思います。実は、7月30・31日と2日間に渡って東京の虎の門にあるニッショー会館で東日本大震災で直撃された消防団員の方々、総務省職員、学者の皆さんのパネルディスカッションの形での意見や体験談、今後活かせる最も重要な発言も多々ありました。それに行ってまいりました。そのときもやはり、今の気持ちと同じですけども、一番減災に繋がるのは、助け合いです。やはり隣近所の助け合いです。これを私の気持ちの中で持ち続けております。市長さんの話の中であったように、終わりのない、諦めないで、少しずつでも良いので継続して、地域の皆さんに分かっていただくような行動をとるのが、減災に対する身近な方法ではないか。予算とか人員とかは限度がありますが、地道な活動こそが一番大きな力になるのではないかと思います。その点も地域審議会の皆さんには、お含みいただきまして、地域へ帰ったときには、地域間のコミュニケーションの大切さというのを、隣近所の皆さんへ伝えていっていただきたいと思っています。

木下委員

会長がおっしゃられたように、地域に住んでいる住民が変な安心を持

っているとか、ここなんですよね。私にもこうしたワークショップなどをやっていて、「香良洲は液状化や津波などは来ないと言っているよ」と言われることがあります。そのように思いたい気持ちは分かるが、実際に来るかどうか分からないし、間違っただ安心を皆さんが持っているというのが、そもそも人間意識はそう簡単には変わらないと思う。南の方にあるように、津波タワーをシンボリック的に作るなどして、強い意識を持てるようにしないと、簡単に人の意識は変わらないと思う。

松島議長
山本委員

ありがとうございます。

通信手段についてですが、香良洲は9地区の自治会館があつて、そこが地震避難所であつたりとか、災害住民の避難場所になっている。7地区の公共施設も避難場所になっていると思うが、そこに電話が設置されています。電話で総合支所へ避難の状態とかを伝えると思いますが、ライフラインが寸断されたときに、電話だけでは心もとないと思います。避難住民の安心・安全のためにも総合支所と避難所の双方向の通信手段を設置できないかなというのが私の要望です。

松島議長

一時避難所や避難所になっている場所と総合支所、若しくは市役所の方と交互の通信方法ですね。

山本委員

電話が設置されていますが、それが寸断されたときには、避難所に集まっている住民にとって一番不安がでると思いますので、ライフラインが途切れても双方向の通信手段の設置を要望します。

松島議長

もちろん、一朝有事の際にはライフラインは、ほとんど使えないという前提で考えた方が正しいと思います。今指摘があつたように、避難所、一時避難所間の通信方法ができれば、災害対策本部としても動きやすい、正確な動きができる。避難者が何名・要救助者が何名とか。この前の東日本大震災のように被害の大きかったところからの声というのは、どうしても届きにくい、一番後になるのが現状でして、今指摘のあつたような方法も一考しないといけません。これに関して事務局の方から。

危機管理担当副参事

ただいまのご意見ですけれども、合併前の旧香良洲町のときの移動系で、アナログの携帯が3台、消防5分団の車に1台、車に移動系の無線機を2台積んでおります。現時点では、アナログからデジタルに移動系も移行していく方向ですので、来年度かどうかというところまでは定かではないが、デジタルに移行したときに避難所と連絡が取れる移動系の無線を設置するように本庁の防災の方と検討中です。現時点では、アナログの無

線機が3台しかありませんので、全部の避難所というわけにはいきませんが、有事にときには3台をフル活用して連絡を密にしていきたいと思っています。デジタルへ移行したときに7箇所と9箇所の全部になるかどうかわかりませんが、極力、連絡が密に取れるように本庁の方と交渉していきたいと考えていますので、しばらくお待ちいただきたいと思えます。

松島議長 ありがとうございます。

木下委員 ちょうど良いチャンスです。新聞等でしか知らないのですが、緊急時に県から津市長への連絡とかをデジタル化したものは、うまくいったのでしょうか？

市 長 訓練はうまくいきましたよ。しかし、あれは最後の最後の手段ですよ。通常の場合ですと、消防の無線を使ってやりますし、そうでなくても、普通の携帯も使いますし、それも全部ダメなときに、最後の最後に衛星携帯電話を使うんです。そのときに、自衛隊も県もそういう状態まで行かないだろう、ということで、最初は普通の無線でやりましょうという話だったが、私としては、最悪の場合にでもできないといけないので、やりましょうと言いました。普通の防災無線の訓練は普段やっています。

木下委員 名古屋市が、100万人に避難勧告を出したが、実際避難したのは、本当に僅かしか避難しなかった。その効果とか結果を調べてみる気はないでしょうか

市 長 庄内川であんな事態を想定していなかったのですが、市長としては100万人に避難勧告を出すというのは、適切な指示とは思えない。なぜかという、私が一番現場で悩むのは、波瀬川から雲出川に入ってくる下川原橋の水位が上がっています。そこで避難勧告や避難指示を出す基準がありますが、それで自動的に出したら簡単なんですけども、そこが水位が上がっているということは、下に水位が上がっているのか、上の水位が増えているのかということで難しい判断になるんです。まずそこを、シュミレーションしてきめ細かにやろう。一志の支所長にお願いして、よりピンポイントに指示が出せないか、例えば室の口のどこからどこまでというふうにやっけていまして、12号より15号の方がやや絞り込みをしました。そういうことが出来るのは、現場のトップしかいないので、市の災害対策本部には各支所長は出席させずに、現場に張り付

いている。例えば香良洲の馬場地区だけ避難勧告をするように話をしている。

木下委員 そこでですね、緊急時には特に自己判断ができるようにならないといけない。情報が来たら避難するようではいけない。やはり日常的にそういう話をしていくのは大前提だと思います。それと、ある地域が言葉を変えようという話がありしたよね。避難勧告？避難指示？指示より勧告のほうが厳しそうな気がする。ある地域は、緊急時において、高台へ逃げろ！と指示的、命令的に言うという所も出てきたんですね。我々に伝わってくる、柔らかい言葉、平易な言葉であることを行政の方にお願ひしたいと思います。まず自分たちで判断できる勉強会なり研修会なりを地域、地域で自主防災さんにお願ひしたいと思います。

松島議長 全くその通りだと思います。自主防災組織が動いたら、一番強い力になると思います。市の職員さんでも、夜中に香良洲で何かあったら、一体何人が動けるか。立場を変えて消防団として考えますと、指揮命令系統が分かっておれば良いのですが、一般の職員しか残っていなかったら、誰が指揮をとるのか、通信手段が途切れた場合、香良洲町内だけで動かなければならないときなど色んな心配が出てきます。消防団としては、上席順に階級がございますから普段から訓練をして、階級のトップ者が号令を出す。地域にある市の職員においても、判断ができるように、ある程度自己完結型のようなものを作っていたら対応するのに早いと思います。東日本大震災においても、どこかの町長さんが亡くなって、トップ不在で役場の事務が混乱して、最後まで色んな問題が起こった地域がありました。行政側にお願ひしたいのは、ある程度自己完結が取れるような組織づくりをお願ひしたいと思います。

奥野委員 今言われた、津波タワーのことなんですが、津波タワーを建てるのは、ここは、危ないということを見せるタワーとするのであれば、香良洲では3階建というのは、数少ない家だと思いますが、刀根とか百五銀行の上に、階段で上がって屋上を避難所にして、ここは避難ができるというようなシールを貼って啓発するのも一つの手かな。タワーを建ててしまうのではなく、ここにも避難が出来るとシールを貼るのも良いと思いますし、私は馬場地区なんですが、三雲へ逃げるか、伊倉津へ逃げるのかは考えものなんですが、逃げるのであれば西向いて逃げたいと思います。西向いて逃げるときに橋がないとダメです。あの橋は合併前から、新しい橋に架け替えるという話が前の町長さんのときからあったが、何もさ

れないまま過ぎているのが現状であると思います。

とにかくデルタ地帯の香良洲町なので、少しでも早く大きな橋にしてほしいと私だけではなく、香良洲町の方は思っていると思います。

松島議長

昨年もご意見がありまして、地域審議会として要望は提出してあると思います。色々予算の都合もあると思いますが、香良洲の審議会としても提案していきたいと思います。

支所長

香良洲橋の件ですが、県道ということで、所管の県へ要望しています。地域審議会からのご提言ということで、総合支所としての発信として一番重要ものとして、県政へ向けての要望、自治会連合会を通しての県への要望として毎年出させていただいております。状況としましては、県の方はルート選定として、雲出島貫香良洲公園線の全体のルートを見直す中で、橋も架け替えということで、3案ルートが出ています。その中で業者へコンサル委託をして選定していく。尚且つ、河川協議が必要になってきます。橋は三重県、河川は国です。国と県との協議が必要であると聞き及んでおります。徐々に進められているというのが状況でございます。

松島議長

そういうことだそうです。

奥田委員

香良洲町のときには、香良洲だけの広報を配っていただいていたのですが、今は津広報、それと一緒に農協などのものが一緒に配られます。皆さんが言われるのに、一緒にもらっても目を通せない。見落としなどがあって、ボランティアさんのチラシなどが入っていても目を通していない方がいると思う。このかわら版は、各月なのかどうなんでしょうか。

支援員

それにつきましては、旧市町村の単位でバラバラの発行でしたが、市長からの提案がありまして、来年度から、年4回でページ数も統一していく方向です。

現在の香良洲町は、当初から年4回でして来年度からしていく回数とページ数も同じです。

奥田委員

非常時の時にも、香良洲独自の方法でかわら版などを活用して、室内の放送設備がなくなった時点で、皆さんに徹底して知らせるなどしていければと思います。

松島議長

合わせて、いかに皆さんに読んでもらえるかということを考えた方がよいと思います。

木下委員

今年はあと2回ですか

支援員

12月なのですが、毎年同じ月にするとうニュース等が同じになる可能性

があるので、ひよっとすると正月版とかになる可能性があります。今は私と伊藤くんとやっておりますが、4月とかになったら、単に入学式やとかを考えていますが、もっと身近もので、例えばボランティアなどの海岸清掃をしてもらっている方を取り上げるとか、変わった記事を書けるとも良いのでは。4月には入学式を載せるのも大切ですが、もっと記事に目がいくようなものしたいと考えています。

木下委員 災害に関して意識付けが非常に低いので、意識付けをするシリーズなど、何回かしてもらえたらと思います。

支援員 地域での変わったことがあれば情報提供をお願いしたいと思います。

木下委員 ここにその説明が書いてありますが、その垣根を低くするような、気軽にデジカメで撮って、写真を送ってくださいとすると、地域の方々は案外みえると思います。

支援員 時々情報提供もありますが、今までは回覧でしたが、それでは町民の方の目に届かないということで、広報も月2回という限度がありますので、これだけ別にするわけにはいきませんので、多くの部数のものが入っているの、目が届かないというのも事実だと思います。そういう中で回覧となると、なお、目が届かないので、今は全戸配布しております。

奥田委員 海岸のゴミですが、あれを皆さん気にしています。松阪の幼稚園の方と一緒にゴミ拾いをしたときに、香良洲の海岸に遠足くるのに下見をしたら、こんな状態であれば、子供らを来させられないと言われておりました。ゴミを何とかできないでしょうか。

松島議長 米川町長のときに美杉の村長を呼んだことがあります。どこの管轄とか分かりますか。

産業振興環境担当副参事 前回のときは、海水浴場の付近だけはやってもらったが、今回は県から国へ要望をしてもらっていますが、他に大きな災害がありましたので、なかなか進んでいない。最終は、県が単独でなんとかするという返事をもらっていますが、県の手が回らないのが現状です。

松島議長 他にございませぬか。なければ本日お聞かせいただいたご意見を、私と副会長とでまとめて、事務局を通じて皆様にご理解をいただいたうえで、意見書として提出させていただきたいと思います。

本日はありがとうございました。